

南アフリカ 2025/26年度の生食用ブドウ輸出は明るい見通し

[FreshFruitPortal](#) 2025年10月31日

南アフリカ生食用ブドウ協会 (SATI) によると、2025/26年度シーズンの南アフリカ産生食用ブドウは、有望な滑り出しを見せている。同業界団体によると、輸出量は7,940万箱と見込まれ、これは前年の最終出荷量である7,890万箱に比べて1%未満の増加となる。

SATIは、今季の好調な見通しについて、ブドウを生産する5つの地方すべてにおける好天と、現在進展しつつある物流及び港湾業務の改善によるものであると説明している。SATIのメシア・ピーターセンCEOはこの見通しを伝えるプレスリリースで、「現時点では、2025/26年度の収穫物は、輸出市場の需要に応える良好な品質と十分な量を確保できると見込んでいる」と述べた。

フィリピン市場に初出荷 南アフリカは今シーズン中に、フィリピンへの生食用ブドウの初出荷を予定している。同国の生食用ブドウ市場は、交渉プロセスが完了したことを受けて、2025年2月26日に正式に開放された。SATIによると、同国への輸出は、南アフリカ産生食用ブドウのフィリピン市場への浸透を図るターゲット型市場開発キャンペーンによって支援されることとなっている。

南アフリカ産品の米国への輸出には関税の影響があるものの、SATIは西ケープ州農業局の支援を受けて北米市場向けの販促キャンペーンを展開する計画であるとしている。ピーターセン氏は、「南アフリカの生産者、輸出業者及び連携企業は引き続き回復力と協調性を示している。業界としては、安定した品質のブドウを世界の市場に届ける信頼できる供給国としての南アフリカの評判を維持することに尽力している」と語った。

トルコ マンダリンの生産量は増加、他の柑橘類は大幅減少

[FreshPlaza](#) 2025年10月31日

トルコ農林省は、2025年の国内柑橘類生産量の減少を予測している。報告書によると、オレンジ及びレモンの生産量は前年と比較してそれぞれ15.0%及び34.8%減少する見込みである。これに対しマンダリンは、次期シーズンに向けた生産量の緩やかな増加を反映して7.1%増と予測されている。

柑橘類以外では、同省の予測は多くのナッツ類で収量の減少を示している。前年比の生産量はヘーゼルナッツで38.5%、クルミで38.1%、ピスタチオで61.1%、それぞれ減少する見込みである。バナナの生産量も1.6%の微減が予測されており、オリーブの生産量は34.7%の減少が見込まれている。これに対し、メロン及びスイカの収量は増加が予想されており、生産量はそれぞれ17.5%及び8.3%の増加が見込まれている。

同省のデータは、トルコ国内の果実・ナッツ類部門における継続的な変動傾向を浮き彫りにしており、柑橘類及びナッツ類が減少傾向にある一方で、メロン及びスイカの生産量は緩やかな増加を示している。

出典: abc.az

ペルー ブルーベリー輸出は早期のピークで減少の見通し

[FreshFruitPortal](#) 2025年10月31日

ペルー・ブルーベリー生産者輸出業者協会 (ProArándanos) は、ブルーベリーの輸出が予想よりも早くピークに達し、今後数カ月間は輸出量の減少が見込まれると発表した。同協会によると、ペルーのブルーベリー出荷量は第40週 (9月末) にピークの約2万1千トンに達した。これは、シーズン開始時に予測されていた第42週 (12月中旬) の2万4千トンと比較して12.5%の減少である。

今シーズンこれまでにペルーは21万5千トン以上のブルーベリーを輸出しており、これは40万トンと予想される総輸出量の約54%に相当する。米国、欧州及び中国向けの出荷が成長を牽引している。これまでのところ、米国向けが44%、欧州向けが35%、中国向けが15%となっている。同協会は、予想よりもペルー産ブルーベリーのシーズンが短く出荷量も少ないことを受けて、今後出荷量が次第に減少すると警告している。